

看護管理 第23巻 総目次

2013年(1～12月号, 増刊号)

表示は, 著者名: 題名, 号数, 掲載ページ.

特集

1 病院の倫理リーダー養成講座(1月号)

布施達朗: 医療・介護の現場に倫理リーダーを. 1, 14-15.
稲葉一人: 第1講 医療現場における倫理と法について考える——倫理リーダーを育てる. 1, 16-19.
加部一彦: 第2講 現場で遭遇する倫理的問題を認識する. 1, 20-25.

水澤久恵: 第3講 問題を解決するツール——直観的思考から4分割法を用いた倫理的検討法. 1, 26-33.

2 看護師“特定能力”の養成と研修(1月号)

星長清隆・渡邊孝・眞野恵子: 教育—臨床一体の人材育成の現場——藤田保健衛生大学・病院. 1, 36-40.
筑井菜々子・重富杏子・藤谷茂樹・神山潤: 米国卒後医学教育認定評議会の教育方法を取り入れた研修を実施——東京ベイ・浦安市川医療センター. 1, 41-49.

有害事象をめぐる組織としての対応(2月号)

前田正一: 医療事故対応／患者相談対応——その考え方のポイント. 2, 88-90.

〈医療事故対応〉

村田真穂・楠信也・川嶋隆久・古森孝英・前川信博: 有害事象における被害の拡大防止活動——救命率など, 基礎データを把握した患者の生命・身体保護. 2, 91-96.

入田和男・秋好美代子・安養寺美会子: 医療事故初期対応における「現場保存」の意義. 2, 97-101.

児玉聡・高島響子: 患者への情報開示と謝罪——アメリカ・イギリス・国内の取り組み. 2, 102-106.

〈患者相談対応〉

上白木悦子・前田正一: 患者の権利擁護と患者サポート体制——「患者サポート体制充実加算」と同体制における看護師・社会福祉士等の新たな役割. 2, 107-111.

阿部篤子: 看護の視点から考える有害事象への対応——相談体制と対応の実際. 2, 112-118.

榎原章人: 苦情相談の現場から伝えたい7つのこと. 2, 119-122.

相互に学び合う教育と臨床——

東邦大学看護キャリア支援センターの取り組み(3月号)

竹内千恵子・鈴木康美・佐藤ちず子・菊地京子・寺口恵子: 教育・臨床双方のモチベーションが高まる連携のかたち——「オール東邦」で相互に学ぶ関係づくり. 3, 168-176.

鈴木康美・竹内千恵子: ビジョンメイキングを重視した教育担当者研修——部署の活性化を促した取り組み. 3, 177-186.

ELNEC-J 研修を振り返る(4月号)

梅田恵・新幡智子: 多死の時代, 看護師に求められるエンド・オブ・ライフ・ケアの質向上に向けた教育. 4, 250-252.

石橋あかね: ELNEC-Jの研修を定例化し, 地域に根ざした病院をめざす——開催に向け準備や募集において配慮したこと. 4, 253-255.

岡万里・桑田美代子・梅田恵・石橋あかね・江崎宣子・小野幸代・古賀由里: エンド・オブ・ライフ・ケアを教える指導者たちの思い——長田病院 ELNEC-J コアカリキュラム看護師教育プログラム. 4, 256-274.

武藤節子: 組織をあげた緩和ケアの質向上への取り組み——ELNEC-Jの導入とその後の変化. 4, 275-277.

深堀浩樹・得居みのり・吉岡佐知子・西山みどり・松本佐知子・塩塚優子・高梨早苗・高道香織・齊田綾子・田中和子・桑田美代子: ELNEC-J 高齢者プログラムの試験的運用から得られた今後の課題. 4, 278-284.

1 組織内“医療安全ネットワーク”の強化!(5月号)

石川雅彦: 薬剤に関わる医療安全管理——薬剤投与プロセスの特徴と疑義照会のシステム化. 5, 340-344.

石川雅彦: リハビリテーションに関わる医療安全管理——リハビリに関わるプロセスの特徴とチームの取り組み. 5, 345-349.

石川雅彦: 放射線検査に関わる医療安全管理——放射線検査に関わるプロセスの特徴とリスクの予測. 5, 350-354.

石川雅彦: 臨床検査に関わる医療安全管理——臨床検査に関わるプロセスの特徴と情報確認のシステム化. 5, 355-359.

石川雅彦: 医療機器に関わる医療安全管理——医療機器使用に関わるプロセスの特徴と未然防止対策. 5, 360-364.

石川雅彦: 食事・栄養に関わる医療安全管理——食事提供プロセスの特徴と情報の共有. 5, 365-369.

石川雅彦: 介護・療養に関わる医療安全管理——対象の特性の理解とリスクアセスメント. 5, 370-374.

2 アクションリサーチで“思い”を共有する!(5月号)

内山研一・鈴木聡・前田和美: アクションリサーチで“思い”を共有する!. 5, 376-396.

1 クリニカルコーチ研修——臨床と大学が協働した教育プログラムの実際(6月号)

佐藤紀子: クリニカルコーチの育成が必要と考えた背景. 6, 438-440.

原三紀子・竹内千鶴子: クリニカルコーチ育成プログラムの実際. 6, 441-448.

坂本倫美・佐藤紀子：クリニカルコーチの存在と育成プログラムが、組織全体にもたらした効果. 6, 449-452.

武部恵子・大崎香・熊谷美穂子・河崎恵・中島美紀代・樺島恵・佐藤雅美：クリニカルコーチの役割——1年目を振り返って. 6, 453-463.

今野舞・佐藤友佳・今井奈都美：プリセプターの立場からみたクリニカルコーチによる効果. 6, 464-467.

川崎敬子・大熊あつと：看護師長の立場からみたクリニカルコーチによる効果. 6, 468-471.

川野良子・小泉雅子・山内典子・佐藤紀子：クリニカルコーチ研修を担う「看護職キャリア開発支援センター」とは. 6, 472-479.

2 タイダルモデルで行なう院内自殺予防——

NTT 東日本関東病院の取り組みから(6月号)

秋山剛：タイダルモデル導入の経緯と、治療における位置づけ. 6, 482-484.

萱間真美：看護師がすべてわかっていなくていい。患者本人に聞いてみよう——タイダルモデルから、シリアスな場面を乗り越えるコツを学ぶ. 6, 485-488.

尾形潤子・中尾正寿・山本沙織・秋山美紀：臨床に活かすタイダルモデル——精神神経科病棟における看護面接の実際とその効果. 6, 489-496.

評価項目の見直しが進む看護必要度と記録の考え方(7月号)

筒井孝子：アウトカム評価とその根拠となる看護記録の考え方——「看護必要度」のさらなる活用に向けて. 7, 540-546.

嶋森好子：マネジメントツールとしての看護必要度と記録のあり方. 7, 547-550.

田中彰子：看護必要度に必須とされる精度管理——監査に必要な記録とは. 7, 551-556.

松岡さおり：【実践報告1：小倉記念病院】看護必要度の評価・記録と監査体制のあり方. 7, 557-564.

高木日登美：【実践報告2：市立札幌病院】看護必要度監査プロセスの重要性——課題を明確にしてブラッシュアップに取り組む. 7, 565-571.

貝塚久美子：【実践報告3：筑波メディカルセンター病院】看護必要度評価の根拠となる看護記録. 7, 572-578.

1 マインド・スキル・ツールメソッドの成果——組織にどのような変化をもたらしたか(増刊号)

嶋森好子：これからの時代に求められる看護管理のスキルの獲得. 8, 630-635.

高田誠：目標管理の本質を変える OGSM の管理ツール——新たな成果を確実に生み出す. 8, 636-641.

藤田あけみ(講評：山元恵子)：組織の変化をつくり出すためのマネジメント力——目標と戦略の落とし込みがポイント. 8, 642-650.

下村加代子(講評：山元恵子)：看護部の目標管理がどのように変わったか——M-S-Tメソッド研修による変化. 8, 651-657.

佐久間あゆみ(講評：山元恵子)：リーダーシップマインド

分析による管理者としての変革. 8, 658-664.

岩本幸代・山崎涼子：熊本市における3病院合同の看護管理者研修. 8, 665-667.

井手州子：マネジメントスキルを高め、主体的に行動できる看護管理者をめざそう. 8, 668-670.

小嶋紀子(講評：山元恵子)：院内デイケアという新たな取り組みで得た成果——メッセージトライアングルシートを活用. 8, 671-673.

岡本知子：私にとっての新たなスタート——一人の副看護部長として. 8, 674-679.

菅谷周子(講評：山元恵子)：[看護部長の思い]看護部を活性化させたM-S-Tメソッド研修——目標管理シートの活用から見えてきたこと. 8, 680-684.

2 看護マネジメントリフレクション研修を振り返って(増刊号)

河野秀一：看護マネジメントリフレクション研修の評価と課題. 8, 688-694.

箕浦洋子・平山ミツヨ：看護マネジメントリフレクション研修の企画、実施とその評価. 8, 695-700.

上西美奈子：リフレクションと相互コーチングの繰り返しでマネジメントを概念化. 8, 701-704.

津村かおり：自分と向き合うマネジメントリフレクション——看護師長として成長するために. 8, 705-709.

村中千栄子：看護係長研修と看護マネジメントリフレクションとの出会い. 8, 710-716.

加藤みちよ：看護師長を元気づけ、自信をもたせるために. 8, 717-721.

濱沖幸子：成長した自分ともう一度向き合えるマネジメントリフレクションを. 8, 722-724.

金井Pak雅子：管理者にとっての気づきと概念化——マネジメントリフレクションの可能性とその活用. 8, 725-729.

1 看護師が働く環境を改善する——

これまでの流れと今後のありかた(8月号)

小川忍：医療従事者の交代制勤務の変遷と今後の課題——交代制勤務のマネジメントのために. 9, 744-751.

中野孝浩：医療分野の「雇用の質」向上に向けて——厚生労働省による医療スタッフの勤務環境改善に向けた施策. 9, 752-756.

福島通子：是正勧告の分析から知る医療労働環境の実態と課題——社会保険労務士の立場から. 9, 757-761.

笹山尚人：弁護士からの読む「夜勤・交代制勤務に関するガイドライン」. 9, 762-766.

2 看護補助者の活用——

機能的役割分担と能力開発(8月号)

久保祐子・中谷順子・福井トシ子：看護補助者の活用に向けた看護管理者の支援——「看護管理者研修テキスト」と「活用事例集」を作成して. 9, 770-773.

道端由美子・古木アケミ・堀田春美：看護師と協働するチーム医療のなかで看護補助者が育つ. 9, 774-780.

入江昭子：看護補助者の自律性を高め、チームスタッフとして活用する取り組み——機能的役割分担・教育による能

力開発. 9, 781-788.
福島通子：雇用形態の違う看護補助者の労務管理について. 9, 789.

1 ポジティブ・マネジメント入門 ——

しなやかで創造性の高いチームをつくろう(9月号)

市瀬博基：ポジティブ・マネジメント——みずから考え、行動し、助け合う文化をつくるための理論とプロセス. 10, 832-837.
村田由香：ポジティブ・マネジメントを臨床看護管理に活かす——大学と臨床が連携した取り組みの成果と今後への期待. 10, 838-844.
小野芳子：【実践報告：山口赤十字病院】AIを活用したデスクカンファレンスをポジティブに変革する取り組み. 10, 845-848.
渡部尚美：【実践報告：徳島赤十字ひのみね総合療育センター】「あなたのいいところ探します!」で職場を活性化——FISH, AIの向こうに見えてきた「私流」ポジティブ・マネジメント. 10, 849-853.
市瀬博基・村田由香・近末清美・谷口理恵・新宅祐子：【座談会】こうしてスタッフが、組織が、ポジティブに変わった!——私たちの「ポジティブ・マネジメント」実践. 10, 854-862.

2 人口減少時代の人的資源管理 ——

看護管理者に期待される役割とは(9月号)

福井トシ子：医療機関の人的資源管理から地域の公共財としての人的資源管理へ. 10, 866-871.
印南一路：人口減少時代の医療提供体制において看護師の果たすべき役割. 10, 872-877.
酒井郁子：未来のチーム医療に向けた「専門職連携」教育・実践の潮流. 10, 878-883.

チームで取り組む認知症ケアメソッド

「ユマニチュード」その理念とケアの実践(10月号)

本田美和子：ユマニチュードとの出会いと日本への導入. 11, 910-913.
伊東美緒・本田美和子：ユマニチュードのケアメソッド——基本的な技術だからこそ、できているつもりでできていないこと. 11, 914-921.
伊東美緒：多くの認知症ケア理論が存在するにもかかわらずなぜユマニチュードが必要か. 11, 922-926.
林紗美・高光希世・森谷香子：【実践報告：国立病院機構東京医療センター】総合内科病棟におけるユマニチュード実践——認知症の人を「わからない人」のままにしない看護. 11, 927-931.
金沢小百合・丸藤由紀：【実践報告：国立国際医療研究センター病院】急性期病院の個室病棟におけるユマニチュード実践——患者と心の通い合う看護を取り戻す. 11, 932-936.
木村陽子：【実践報告：東京都健康長寿医療センター】精神科病棟におけるユマニチュード実践——尊厳を大切に、思いを実践するケア. 11, 937-939.
盛真知子：【実践報告：国立病院機構東京医療センター】退

院調整看護師としてユマニチュードを実践すること. 11, 940-944.

久部洋子：[コラム]看護管理者からの期待. 11, 945.

地域包括ケア本格化！

退院支援・外来機能を再強化する(11月号)

宇都宮宏子：病院から地域への療養移行期の看護マネジメントを体系化する——地域包括ケアの推進に向けた現状と課題. 12, 986-995.
宮本雅子・勝本裕子：【実践報告：京都大学医学部附属病院】よりよい療養生活のための病棟と外来の継続看護——頭頸部がん患者への支援から. 12, 996-1001.
下條美佳・空閑みゆき：【実践報告：済生会京都府病院】入退院を繰り返す誤嚥性肺炎患者への在宅療養移行と維持に向けた支援——早期からの地域連携を基盤に. 12, 1002-1007.
及川良子：【実践報告：公立昭和病院】地域基幹病院における外来患者への在宅療養支援. 12, 1008-1014.
上野尚美・村田昌子：茨城県看護協会が取り組む在宅医療連携拠点事業——多職種連携推進の基盤づくり. 12, 1015-1020.

1 看護師の業務整理・再編に向けた取り組み(12月号)

松月みどり：看護師の業務軽減に取り組むにあたって——看護の本質を見極めた業務の再配分を. 13, 1072-1076.
各務初恵：【実践報告：済生会川口総合病院】ISO9001 内部監査による看護師業務軽減への取り組み. 13, 1077-1083.
古庄清美・中嶋弘美・鈴木美枝子：【実践報告：北里大学病院】外来看護業務の拡大に向けて——診療アシスタント導入による効果. 13, 1084-1089.
塩田美佐代：【実践報告：NTT 東日本伊豆病院】放射線技師およびリハ療法士の役割拡大による看護師の業務軽減. 13, 1090-1097.
林靖子：【実践報告：福井赤十字病院】固定チーム・デイパートナー方式による看護業務の改善. 13, 1098-1103.
小林美亜・池田俊也：経済的観点から看護職の業務整理・再編を考える——より専門性を発揮できる環境整備に向けて. 13, 1104-1110.

2 看護部の組織文化をいかに醸成させたか ——

ホスピエグループの取り組みから(12月号)

岡山ミサ子：看護部再生の第一歩から看護の醍醐味を味わう組織づくり——ホスピエグループ腎透析事業部看護部のあゆみ. 13, 1114-1122.
宮下美子・牧野範子・牛崎ルミ子：育ち合いの組織づくりに取り組んだ10年——リーダーたちそれぞれの実践を振り返る. 13, 1123-1130.
岡山ミサ子：ホスピエグループ版「学習する組織」という組織文化醸成までの軌跡を振り返って. 13, 1131-1133.

特別記事

岩永直子：市民目線から見た「看護師特定能力認証制度」. 2, 124-127.
結城房子：「その人らしさ」を守る医療・看護とは——急性

期病院・療養病院の管理者を経験して. 3, 188-193.
朝倉真奈美: BSC のビジョン達成をめざす師長の関わり
—— 脳神経外科病棟におけるマネジメントの実践から. 3,
194-199.
石川雅彦: 医療対話推進者の戦略的育成 —— 組織の“患者・
家族対応力”アップ!. 4, 286-293.
石川雅彦: 医療事故の医療側当事者支援 —— Second Victim
を防止するシステム構築の必要性. 7, 582-586.
武藤清栄: 看護管理者のためのメンタルヘルス演出術 (1)
メンタルヘルス支援に「演出」の視点を. 11, 948-952.
田淵典子: 愛媛大学医学部附属病院 総合診療サポートセン
ターの体制づくりと運用の実際 —— 患者を地域生活から
切り離さない支援をめざして. 12, 1024-1030.
武藤清栄: 看護管理者のためのメンタルヘルス演出術 (2)
話を聴くことは心を聴くこと. 12, 1038-1042.
齋藤訓子: 介護施設における看護の役割と看護管理者への期
待 —— 日本看護協会の支援策と今後の展開 齋藤訓子氏
(日本看護協会常任理事)に聞く. 13, 1135-1139.
武藤清栄: 看護管理者のためのメンタルヘルス演出術 (3)
管理者の心のセルフケアに活かす演出. 13, 1140-1143.

実践報告

加賀有未: ワーク・ライフ・バランス充実をめざしたアク
シオンプランの一例 —— 変則 2 交代 100 %・14 時間夜勤
導入への取り組み. 1, 52-55.
永安千春・小原美智代・小田朋未・的場絵美: 急性期病院か
ら地域へつなぐ“看護訪問”の取り組み. 3, 200-204.
柿本なおみ・竹内由美・松下清美・西田美奈子: 看護部の目
標管理にプロジェクト手法を用いた効果. 4, 294-298.

調査報告

岡島恵子・水野(松本)由子: 一般病院と療養型病院に勤務
する看護職員の性格特性と職業キャリア成熟度との関連.
12, 1044-1049.

NA レポート

本誌編集室: 第 1 回日本 NP 協議会開催 —— NP 課程修了者
らによる現況報告. 1, 50.
本誌編集室: 聖路加市民アカデミー 2012 開催 —— 「自分ら
しく生きる」を支えるために. 1, 51.
本誌編集室: 第 17 回日本看護サミット青森開催 —— 生命
(いのち)をつなぐ看護. 1, 56.
本誌編集室: 第 1 回 CNS キャリア育成のためのスキルアッ
プセミナー —— 「CNS の役割開発・役割獲得」開催. 4,
285.
本誌編集室: National SUN at ちゅう SIM 開催 —— 医療シ
ミュレーション教育関係者が一堂に会する機会に. 5,
398.
本誌編集室: 第 18 回日本緩和医療学会学術大会開催 —— 患
者, 家族, 医療従事者にとって幸せな緩和医療を. 10,
863.
本誌編集室: 第 63 回日本病院学会開催 —— 病院機能の維
持・質向上の方略を探る. 10, 864.

連載 やじうま宮子の看護管理な日々

宮子あずさ
(82) ゴミの管理は生活の管理. 1, 64-65.
(83) 好き嫌いの問題. 2, 142-143.
(84) 無理が効かなくなってきたからの看護. 3, 226-227.
(85) 体罰問題 —— 看護の世界は大丈夫?. 4, 316-317.
(86) 専門学校の卒業生に贈る言葉. 5, 414-415.
(87) 50 代目前に, 大学院を修了して思うこと. 6, 516-517.
(88) 「役職定年」の時代に. 7, 604-605.
(89) 『宅間守精神鑑定書 —— 精神医療と刑事司法のはざま
で』を読んで. 9, 808-809.
(90) ブログの炎上事件から考えるネットでのコミュニケーション. 10, 902-903.
(91) 他職種の大変さを理解する. 11, 960-961.
(92) 人間の変わらなさに目を向ける. 12, 1050-1051.
(93) 「精神科にかかっていました。看護師になれますか?」.
13, 1158-1159.

連載 おとなが読む絵本

ケアする人, ケアされる人のために

柳田邦男
(81) はたらく父親よ! その仕事よ!. 1, 66-67.
(82) 北極は「生命」あふれるところ. 2, 144-145.
(83) ほのほのって, ラブストーリーでは. 3, 228-229.
(84) 人はなぜ動物を愛するのか. 4, 318-319.
(85) 木が奏でる音と子どもの成長. 5, 418-419.
(86) 背筋をのびし空を見上げよう. 6, 518-519.
(87) 人間を育ててきたあの森, この森. 7, 606-607.
(88) 悲しみから生まれる深い言葉. 9, 810-811.
(89) 子どもは何が大事なことから感知している. 11, 962-
963.
(90) 人が他者を理解するとは. 12, 1052-1053.
(91) 傘を開くとき心も大きく開いて. 13, 1162-1163.

連載 政治と看護の話をしよう!

石田昌宏
(11) 看護界の意志を社会に訴える. 1, 59.
(12) 政党の国民に対する約束. 2, 131.
(13) 新政権の組閣から見えてくる期待. 3, 215.
(14) 患者のためのチャレンジを当たり前のことにする環境
づくり. 4, 301.
(15) 次期診療報酬改定での「入院医療の適切な推進に向けた
課題と論点」. 5, 420.
(16) 健康に生きるための教育をすべての人に —— 「麻生発
言」で考えたこと. 6, 497.
(17) 看護職の政治参加 —— 制度の変革に関心をもつこと. 7,
587.

連載 自分をリーダーに育てる

坂本すが
(1) マネジャーとしての枠をさらに広げて真のリーダーにな
ろう. 1, 57.
(2) リーダーは常に自分の行動を「内省」する. 2, 129.

- (3) リーダーは自問自答により信念を見出す. 3, 213.
(4) 自らの弱さを自覚する. 4, 299.
(5) 現状を打破するには自らアクションを起こす. 5, 397.

連載 師長の臨床

- 佐藤紀子・上野幸子：(5) 経験(受動)から引き出される能動的なふるまい. 1, 60-63.
佐藤紀子・高橋テル子：(6) 相互作用によって創造される臨床の『知』. 2, 138-141.
佐藤紀子：(7) 看護の知の水脈から読み解く師長の臨床——幸田文『闘』. 3, 222-225.
佐藤紀子：(8) 看護の知の水脈から読み解く師長の臨床——江川晴『婦長物語』. 4, 308-311.
佐藤紀子：(9) 看護の知の水脈から読み解く師長の臨床——井上ひさし『吉里吉里人』. 5, 400-403.
佐藤紀子：(10) 師長が担う看護管理の目的. 6, 502-505.
佐藤紀子：(11) 看護学とは、臨床の知とは、何か. 7, 588-591.
佐藤紀子：(12) 省察しつつ実践する看護師は師長をめざす. 9, 792-795.

連載 問題事例に看護コンサルテーション！

- 松下年子
(1) 放置された「クレーマー患者のSOS」——患者への甘えと依存. 3, 206-211.
(2) 意見の対立を経て、成熟した組織へ——そのプロセスで問われる能力. 4, 312-315.
(3) HIVのケアをめぐる脇役が主役になった——看護の専門性と看護師の感染リスク. 5, 404-407.
(4) 看護の守備範囲と院内資源の活用——ジェネラリストに求められる「心のケア」の能力とは. 6, 506-509.
(5) 看護師が主体的に働くことの意味——主治医の指示と看護師の自立的判断の間で. 7, 594-597.
(6) 問題らしき事象を問題とせず耐え得る看護チームの底力. 9, 796-800.
(7) 対人関係に問題を抱えた看護師の事例を通じて、看護管理者の「依存」を考える. 10, 888-892.

連載 患者の目線——その先へ

- 三輪恭子：(1) 術後の痛みは当たり前？ 子宮筋腫で初めての手術. 1, 68-69.
高山雅子：(2) がんサバイバーと職場 プラスに捉えてみると. 2, 146-147.
阿保順子：(3) 痛みを緩和する“手当”と“希望をもたらす言葉”とは？. 3, 230-231.
藤野泰平：(4) 心細いとき何を知ると安心するか？——耳鼻科の手術で入院して. 4, 320-321.
藤野泰平：(5) “生活上の不安”への看護相談指導、外来や街のなかにもあれば——耳鼻科の手術で考えた、退院後のフォロー. 5, 416-417.
望月正敏：(6) 亡くなる前の言葉の記録がグリーフケアにつながる——病院での看取りケア. 6, 520-521.
西村元一：(7) 夫婦で当事者になった怒濤の1か月を経験し

て——妻が、がん!? 医師の夫の胸中は……。7, 608-609.

みやび：(8) 揺れる選択 チャンスは一度きり？ 今だから語れる外来輸血騒動——夫が肺がん！治療後5年の節目. 9, 812-813.

大久保菜穂子：(9) 助産師は優しい魔法使い 大事なのはリラックス——戸惑う初産婦が納得した健康教育. 10, 904-905.

大久保菜穂子：(10) 助産師は最高の水先案内人！——「安産の家」を形づくる4本の柱とは？. 11, 964-965.

勝原裕美子：(11) 患者・家族の心配ごとは医療者の想像を超えて——父と私、2つの手術から. 12, 1054-1055.

森山美知子：(12) 今一度見直してみませんか？人の生き方、医療・介護の提供——難病の母の在宅療養を支えて. 13, 1160-1161.

シリーズ ひとつうえの看護の力 CNS²

相澤まどか・井出由美・山田雅子：(3) [巻頭座談会] CNS ならではの視点と実践でめざすチーム医療のスパイラルが動き出す[小児看護専門看護師編]. 8, 617-625.

シリーズ 職員の安心を支える病院デカ

横内昭光：(13) これまでの10年 これからの10年. 1, 58.

吉田護：(14) 魔法の鏡. 2, 130.

今野正宏：(15) 真夜中のオンコール. 3, 214.

濱田一裕：(16) 「ためらい」が招く悲劇をなくしたい. 4, 300.

福田吉郎：(17) はじめての病院勤務. 5, 399.

工藤孝：(18) 恫喝クレーマー対応奮戦記. 6, 501.

定宗和基：(19) 安全で安心な医療現場は朝の挨拶で始まる. 7, 592.

赤川修：(20) 不良外国人患者への対応. 9, 791.

室井正男：(21) 自ら声かけして対応した病院内での珍事件. 10, 885.

田中俊夫：(22) “ナースよ銃をとれ”. 11, 947.

荒木義行：(23) 院内暴力対策委員会でめざす安全・安心な職場づくり. 12, 1023.

齋藤辰八郎：(24) 挨拶と優しさは殺人犯の心をも開く. 13, 1155.

シリーズ 専門看護師の臨床推論⁺

コメント：大生定義・井部俊子

高見紀子：(13) 子どものいる患者家族の強みを引き出す支援——①医療者の思いと現状のずれを修正し、家族支援の目標を立てる. 2, 132-136.

高見紀子：(14) 子どものいる患者家族の強みを引き出す支援——②個々の家族に意図的に介入し、残された時間を家族で過ごす. 3, 216-220.

宇都宮明美：(15) 人工呼吸器離脱困難者が歩行する——個々の専門性を活かし、総合力を高める. 4, 302-306.

瀧真弓：(16) 掘り下げて聴くことで見えてくる女性のニーズと看護. 5, 408-413.

梅田恵：(17) スピリチュアルペインに寄り添う看護師への
コンサルテーション. 6, 510-514.

白井教子：(18) パニック状態に伴う不安のアセスメントと
対応. 7, 598-602.

佐藤直子：(19) 患者の意思を尊重し、皆が納得する療養方
針を決定するための調整. 9, 802-807.

長谷川久巳：(20) CNS が決断した最良の方策は主治医の交
代であった. 10, 894-900.

米田昭子：(21) 慢性疾患患者がふらっと訪れる看護外来
——「ねばならない」からの解放. 11, 954-959.

中山祐紀子：(22) パッドニュースを伝える技. 13, 1148-
1154.

巻頭

井部俊子・大生定義・宇都宮明美・梅田恵・渡邊輝子・長谷
川久巳・白井教子・中山祐紀子・田代真理・米田昭子・塩
塚優子・高見紀子：座談会 シリーズ・専門看護師の臨床
推論 CNS の卓越した思考と実践を振り返る. 1, 1-9.

中山法子・杉元佐知子：インタビュー 患者とチームとの信
頼関係があつてこそ——特定能力をもった看護師の活動.
2, 77-83.

SUNG KIM・SA IK BANG・HUN-JONG DHONG・JOON
HYEOK LEE・安井はるみ：インタビュー 世界に躍進
するリーディングホスピタル サムスン医療院のリーダー
シップ. 3, 157-163.

高井今日子：JCI 受審備忘録——認証取得は終わりではな
く、質改善継続の始まり. 4, 239-245.

飯田英男・嶋森好子・高島尚美：座談会 医療と法律の関係
から医療安全とチーム医療を読み解く. 5, 329-335.

小川忍：インタビュー 看護職の夜勤・交代制勤務のルール
づくりを——日本看護協会「ガイドライン」策定のねらい
と看護管理者への期待. 6, 429-433.

岩澤和子：インタビュー 2013 年度看護に関する重点政策.
7, 529-535.

渋谷美香：インタビュー 「初めて指導者になった人」をど
うサポートしていますか？——「育てる人」を支えるため
のヒント. 9, 735-739.

手島恵・市瀬博基：対談 いま、なぜ「ポジティブ・マネジ
メント」なのか——スタッフを、組織を、そして自身を
拡張させるマネジメント. 10, 821-827.

白井文・吉岡牧子・北浦暁子：インタビュー 社会との対話
から、組織の価値を再構成する——資生堂創業 140 周年
「未来椿プロジェクト」に学ぶ. 11, 899-905.

宇都宮宏子・松嶋大・長村ひとみ・佐々木勝也・佐藤美佳
子・佐藤由美子：座談会 “できることは、なんでもや
る！”——患者をまるごと支える“チームなかつ”がめざ
すみんなにやさしい地域医療. 12, 973-981.

諏訪茂樹：インタビュー 職場のやる気を引き出す管理職の
関わりとは——目標管理とコーチングに学ぶ人材育成の
コツ. 13, 1063-1067.

TOPICS

鈴木久美子：産科病棟での災害対応マニュアル作成のヒント
に——日本看護協会『分娩施設における災害発生時の対
応マニュアル作成ガイド』が完成. 6, 498-500.

島田陽子：2013 (平成 25) 年度看護職員関係予算——「看護
補助者活用推進事業」について. 7, 581.

高口みさき：新人看護職員研修支援のための DVD 教材『心
の聴診器～キミは独りじゃない～』が完成——愛知県が
企画・作成. 10, 886-887.

中村奈央：自施設から始める！地域との連携——専門性の
高い看護師による訪問看護ステーションとの同一日訪問実
施にあたっての具体的なポイント. 12, 1032-1036.

山川みやえ：ベストプラクティスの共有でケアの質向上を
——国内外のエビデンスを実践に活かすには. 13, 1145-
1147.

横内昭光：シリーズ「職員の安心を支える病院デカ」最終回
によせて——病院の危機管理の一翼を担う警察 OB たち.
13, 1156-1157.

学会・研究会に行こう！

臨床看護マネジメントに必要なツールの開発と活用. 2,
128.

書評

勝原裕美子：在宅ケアのはぐくむ力. 3, 212.

草刈淳子：日本近現代医学人名事典 (1868-2011). 6, 480.

冷水育：臨床実践力を育てる！看護のためのシミュレーショ
ン教育. 13, 1164-1165.

高橋千晶：ひとを育てる秘訣. 13, 1166.

武村雪絵：看護管理者のコンピテンシー・モデル——開発
から運用まで. 13, 1168.

DVD 評

黒木淳子：映像で理解する経管栄養の技術. 2, 148.